

ランチオンセミナーのご案内

日時 2015年 6月 29日(月) 12:15~13:15

会場 第3会場(金沢市アートホール) 石川県金沢市本町2丁目15番1号

1 化学物質の安全性評価における PXBマウス®の活用 —非遺伝毒性発がん性物質のヒト危険度予測の事例—

山田 智也 先生

住友化学株式会社 生物環境科学研究所

化学物質のヒトにおける発がん性はげっ歯類を用いたバイオアッセイにより評価されているが、発がん作用様式によってはバイオアッセイの結果をそのままヒトに外挿できないケースが存在する。従って、ヒトにおける発がん性を正確に評価するには、げっ歯類における発がん作用様式を解明し、その作用様式をヒトにも適用できるか否かを調べるのが重要である。我々は肝発がん作用様式のkey eventのひとつである肝細胞の増殖亢進作用に関し、これまではヒト遊離肝細胞の初代培養系を用いて化学物質のヒトへの影響を評価してきたが、今回、ヒト型肝臓キメラマウス(PXBマウス®)を用いてフェノバルビタールの影響を検討したので紹介する。

2 PXBマウス®を用いた肝毒性メカニズム研究の試み

荒木 徹朗 先生

旭化成ファーマ株式会社 医薬研究センター 安全性・動態研究部

肝毒性発現における動物種差は医薬品研究開発の大きな課題の一つである。我々はPXBマウス®を用いて、臨床で薬物性肝障害を引き起こした化合物の肝毒性メカニズム解明を試みた。14日間経口反復投与の後、ヒト肝領域を摘出し、DNAマイクロアレイ解析を実施した。本講演ではその結果から、肝毒性研究におけるPXBマウス®の有用性について議論する。

座長 株式会社フェニックスバイオ 常務取締役 研究開発部長 **立野(向谷) 知世**

250名様分の昼食をご用意しております。混雑を避ける為、セミナー当日8:30より石川県立音楽堂 1F ロビーにて整理券を配布致します(整理券は無くなり次第配布を終了致します)。